（2）区間・エリアごとの整備計画

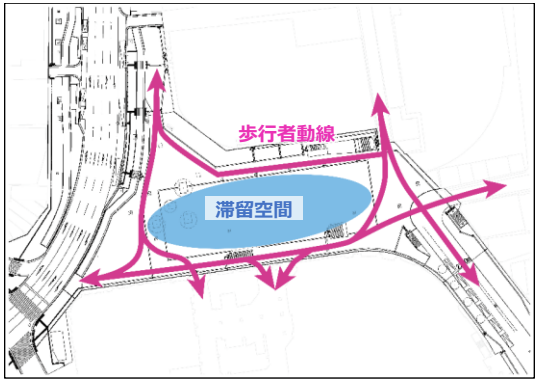
①　駅前広場

○機能とゾーニング

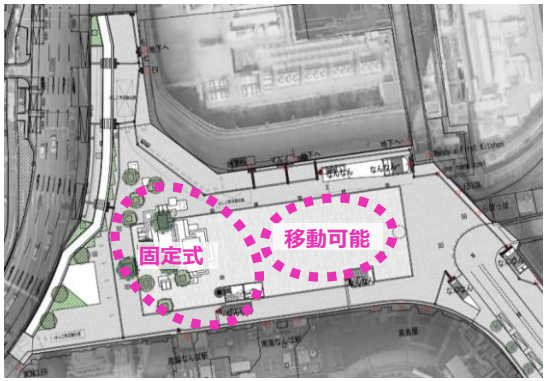
- 駅前広場の中央を基本に、広場のコンセプトの中心となる利活用エリアを配置します。利活用エリアの外周部は、歩行者の通行空間を十分な幅員で確保します。
- 駅前広場では、既存の施設出入口等の動線にも配慮して、日常の歩行者動線（「動」的な通行空間）とそれ以外の空間（「静」的な滞留空間）を緩やかにゾーニングすることで、居心地の良い憩いの空間と日常のにぎわいが両立する広場を実現します。また、非常時には緊急車両による活動が可能な空間を確保します。
- 滞留空間は、全体を一体的に利活用することが可能な、可変性が高い空間構成とします。
- 広場西側は、御堂筋と連続した景観性を保ちながら、固定式の休憩スペースを中心に配置し、東側は移動可能なベンチとするなど、日常・非日常の多様なニーズに応える滞留スペースの確保をめざします。

通常の利活用のイメージ

一体的な利活用のイメージ



配置イメージ



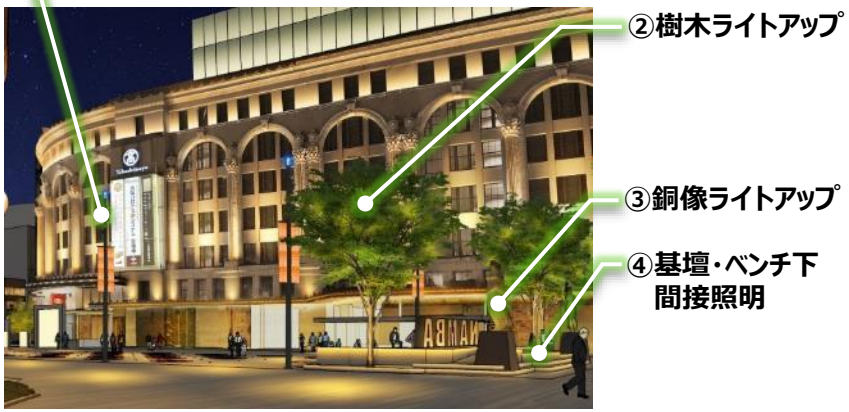
※今後関係機関との協議により内容を変更する可能性があります

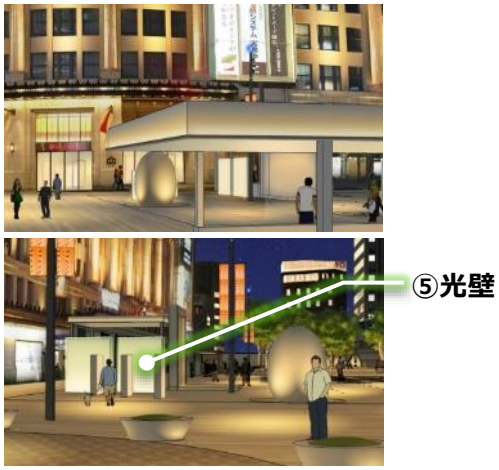
（2）区間・エリアごとの整備計画

① 駅前広場

○照明手法

- 広場は、「居心地の良い大空間」として視野に入らない高さから照明を照らすことで、陰影のある明るさが路面全体に広がります。
- 視線を受ける広場中央は細やかな間接照明により、都会の広場らしい品格を演出します。
- オブジェ等は広場を囲むように点在し、楽し気な印象を醸し出します。





※今後関係機関との協議により内容を変更する可能性があります

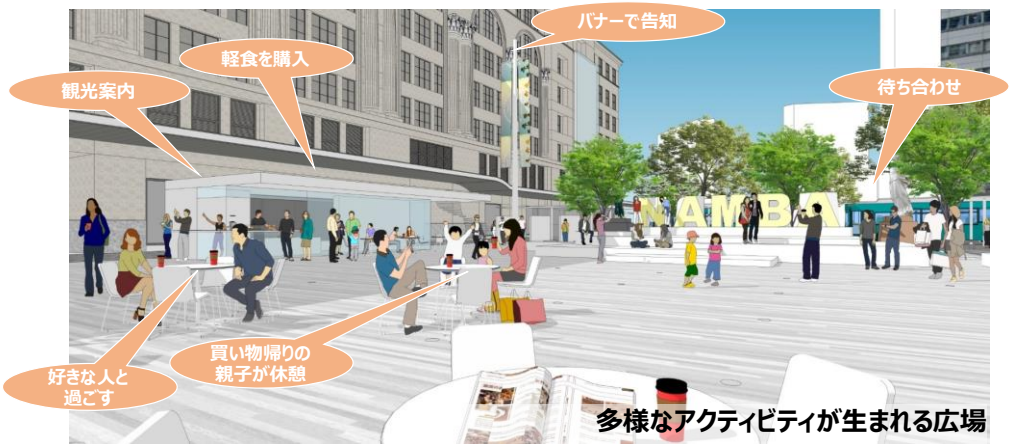
（2）区間・エリアごとの整備計画

① 駅前広場

○整備イメージ

- 人が美しく見える舞台として、広場のグランドレベルの背景となる舗装は素材感・色に留意し、上質感・落ち着きを感じさせる空間をめざします。滞留空間と歩行空間を床パターンによりさりげなく区分します。
- 大阪の玄関口としてのおもてなし空間として、多様な過ごし方を受け入れる居心地の良さを演出するため、滞留性を高める休憩施設や演出照明等は、ぬくもり感を感じさせる素材・色等を選定します。
- 人が生み出すにぎわいの風景づくりとして、なんばの誇りとなるシンボル景観や夜間景観の創出とともに、感動・驚き・にぎわいを呼ぶアクティビティの展開を図ります。

自分好みの居場所が見つかる滞留スペース



多様なアクティビティが生まれる広場

4．整備計画

（2）区間・エリアごとの整備計画

① 駅前広場

広場を彩る照明デザイン

南海ビルからマルイ方向を望む

西側から見た風景

建物に隣接した滞留スペース

南海ビルから広場を望む
木々に囲まれた滞留スペース

※今後関係機関との協議により内容を変更する可能性があります

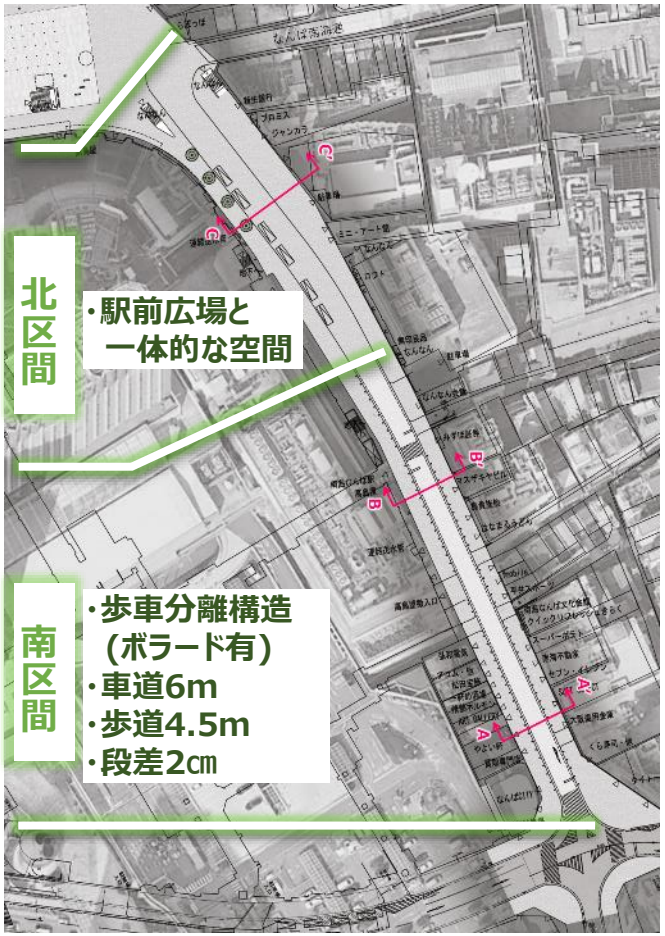
4．整備計画

（2）区間・エリアごとの整備計画

② なんさん通り(南北)

〇空間構成

- 現在の幅員構成の中で居心地が良く歩きたくなる空間をめざし、駅前広場からのにぎわいを途切れることなく連続させるとともに、無電柱化の実施と歩道拡幅等により歩行環境を改善します。
- 駅前広場と連続した高質性を感じながら、沿道の多彩な個性と活気により、歩いて楽しい歩行者重視の安全・安心な空間を創出します。



■北区間

駅前広場と連続し一体的な空間として、歩行者が自由に行き交うことが可能な断面構成とします。

■南区間

歩車分離構造として安全性を確保しつつ、段差が少なく親しみやすい空間構成とします。

※今後関係機関との協議により内容を変更する可能性があります

4．整備計画

（2）区間・エリアごとの整備計画

② なんさん通り(南北)

○整備イメージ

・駅前広場との連続性により、人の流れを誘導します。特に夜間景観の面では、北区間に広場と同じデザインの照明を設置します。

幅員を拡げ、歩きやすい歩道空間とする

北：日中は車両進入を禁止し、歩行者中心の空間とする

一体感のある広場となんさん通り(南北)

安全・安心と魅力的な夜間景観の両立

周辺建物を含めた夜間景観

なんさん通り(南北)南端から北方向を望む

※今後関係機関との協議により内容を変更する可能性があります